



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

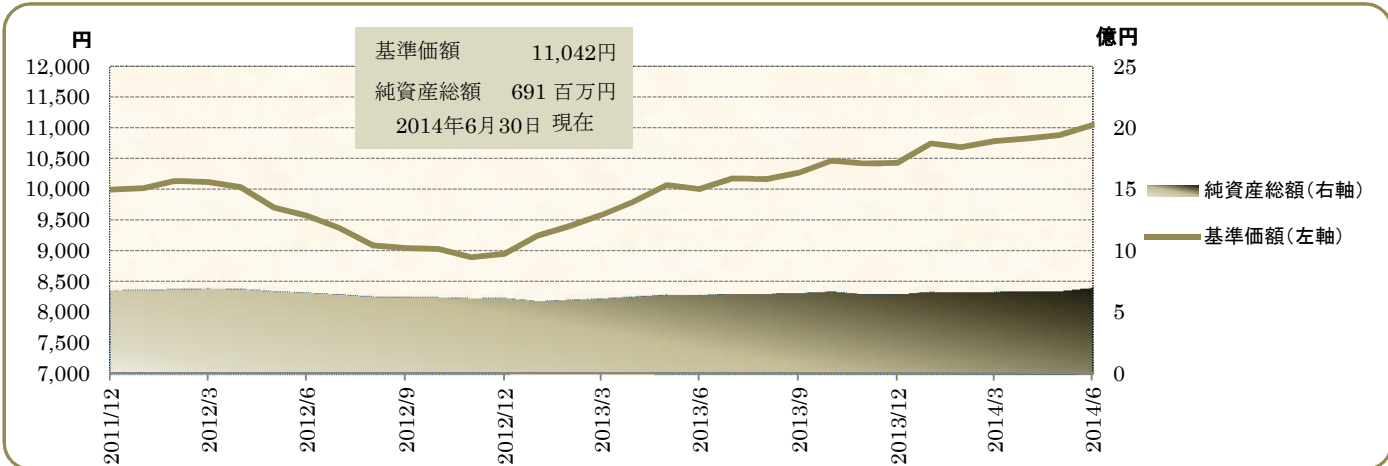
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2014年6月30日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

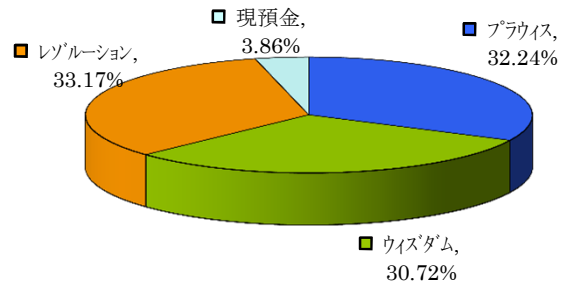
2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.05%	-0.55%	0.89%	0.41%	0.55%	1.48%							5.93%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	3.32%	1.57%	2.01%	2.27%	2.77%	-0.68%	1.80%	-0.18%	1.03%	1.91%	-0.43%	0.08%	16.51%
2012	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	0.28%	1.22%	-0.21%	-0.83%	-3.36%	-1.32%	-2.12%	-3.02%	-0.45%	-0.17%	-1.51%	0.66%	-10.40%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2014年6月30日	
基準価額:	11,042円	対前月比 161円
純資産総額:	691百万円	対前月比 +26.0百万円
設定来高値:	11,042円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	2.45%
基準価額騰落率	6ヶ月	5.93%
設定来	ファンド	10.42%
基準価額騰落率	TOPIX	74.49%
	日経平均	80.46%

投資対象ファンドへの資産配分 (2014年6月30日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2014	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.24%	-0.37%	0.41%	1.08%	0.88%	2.08%							6.45%
ウィズダム	0.94%	-0.06%	0.36%	0.81%	0.50%	1.06%							3.66%
レゾリューション	6.74%	-0.06%	2.94%	0.52%	1.36%	2.63%							14.83%
アドバンスド	3.59%	1.01%	0.60%	2.15%	1.23%	2.72%							11.79%
バリエーション	7.64%	0.92%	3.59%	3.63%	1.89%	5.28%							25.10%
2013	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	2.93%	1.07%	1.65%	3.95%	3.00%	-0.09%	1.11%	-0.32%	0.23%	0.95%	-1.04%	-0.06%	14.08%
ウィズダム	2.59%	2.09%	0.71%	2.09%	2.03%	1.19%	1.36%	0.44%	1.06%	0.73%	-0.15%	-0.01%	15.05%
レゾリューション	5.82%	2.76%	4.78%	2.00%	4.83%	-1.97%	4.08%	0.46%	2.94%	4.90%	1.06%	1.46%	38.27%
アドバンスド	7.06%	6.89%	2.79%	6.39%	5.21%	4.71%	4.15%	0.84%	1.20%	1.91%	-2.71%	1.61%	47.65%
バリエーション	11.36%	2.57%	1.43%	14.44%	7.46%	1.93%	3.77%	0.67%	0.51%	3.33%	-5.39%	3.07%	53.66%

* 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

* アドバンスドおよびバリエーションの騰落率はJPY-Sクラスの騰落率です。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

6月の株式相場は日経平均で3.62%上昇の15,162.10円、TOPIXで5.09%上昇の1,262.56ptと、今年に入って初めての2か月連続の上昇となりました。特に、小型株が大きく上昇し、東証マザーズ指数は16%の大幅上昇となりました。

上旬は、米国株式市場の上昇や円安、消費税増税による反動減懸念の後退、中国の景気指標の回復などから、5月下旬からの株価上昇が続き、日経平均は2か月ぶりに15000円を回復しました。

中旬にかけてはイラク情勢の緊迫化等から一時15000円を再度割れる展開となりましたが、下旬にかけては米FRBのイエレン議長が早期の利上げに対して慎重姿勢を示したことでリスクオンのムードが広がり米国株が上昇、日本株もつれ高となりました。

終盤にはイラク情勢の混迷から調整したものの、法人税引き下げやGPIFによる株式運用の拡大などに対する期待感から支えられ、日経平均は15000円を保持して終えました。

2か月連続の上昇となったものの、東証一部の売買代金が活況の目安とされる2兆円を上回ったのが21営業日中わずか5日間と、引き続き売買は低調な状況が続いています。

需給面では、6月第3週までの3週間で外国人が2か月ぶりに買い越しに転じました。一方で、個人投資家が3か月連続で売り越しとなりました。

セクター別騰落率では、33業種中31業種が上昇し、鉄鋼、その他金融、証券・商品先物取引、建設が騰落率上位となり、パルプ・紙、ゴム製品、海運、水産・農林が下位となりました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

〈ファンド運用状況〉

6月の運用成績はJPYクラスで+2.08%となりました。6月中旬にかけてバリュファクターが機能し、幅広いセクターで割安に放置されていた銘柄の見直し買いが入ったことがプラスの要因となりました。

セクター別の損益は、電機、鉄鋼、食品、機械、小売りセクターでプラスとなり、ガラス土石、陸運セクターでマイナスとなりました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

7月の株式市場は上値の重い展開を想定します。6月に大幅に上昇したことで、テクニカル指標面での過熱感が強くなっていることや、TOPIXが年初来高値に近付いていることから利益確定売りに押されやすい展開になると考えます。しかし、7月下旬から始まる4-6月期決算で好業績が確認できれば、再び上昇基調を強められると思われれます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【ウイズダム】

〈ファンド運用状況〉

6月の運用成績はJPY-Fクラスで+1.06%でした。株式市場が上昇する中、素材・自動車・金融などの景気敏感セクター内の出遅れ銘柄の上昇によりプラス収益を確保しました。

個別銘柄レベルでは、ロングポジションでは日本新薬(4516)、日立(6501)、ショートポジションでは大王製紙(3880)、日立物流(9086)がプラス収益に寄与しました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

7月の株式市場は緩やかな上昇を予想します。国内経済は消費増税を乗り越え回復トレンドへ復帰する可能性が高まっていることやGPIF(年金積立管理運用独立行政法人)をはじめとする公的資金が資産配分を見直し国内株比率引き上げを検討していることから株式市場は底堅い展開を予想します。

今後の投資戦略につきましては、クオンツモデルとトップアナリストによる投資評価の双方を活用し、銘柄選択により安定的な収益を目指します。

【レゾリューション】

〈ファンド運用状況〉

6月の株式市場は、5月下旬からの戻り相場が継続し、劣位にあった中小型が優位な展開となりました。しかし、高バリュエーション銘柄や財務内容の悪い銘柄ほど上昇するなど、ファンダメンタル無視のリバウンド相場の色彩が強くなっています。

ポートフォリオは、精密、サービスなどのセクターをオーバーウェイトし、小売セクターを大きくアンダーウェイトとしました。また、小型株ロング、大型株ショートの状態を維持しました。

業績好調なテクノロジー銘柄で割安にあったメック(4971)やJマテリアル(6055)などのロングがプラス寄与し、ネット関連銘柄のショートがマイナス寄与となりました。

割安放置となる銘柄が目立つ中で、好業績な個別銘柄のロングウェイトを高めることが出来たため、高バリュエーション銘柄のショートが想定以上に上昇する局面で全体の利益確保が可能となりました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

新年度入りし、保守的な会社ガイダンスに対する見方が修正されるなど、株式市場全体として底堅い業績見通しを反映した動きとなっています。

一方、個人投資家の保有比率が高く、極端に売買回転率の高い銘柄がマネーゲーム的に買われている例も多く、ファンダメンタル面から乖離した値動きも多く見られます。

割安な小型株に注目が集まる局面はすぐに訪れないと考えますが、従来以上にバリュ銘柄のウェイトを増加させ、加えて定性的なプレミアム付与が可能なグロース銘柄への投資を進めます。

過度なリバーサルによる高バリュエーション銘柄のショートの機会を伺い、一方、業績モメンタムの大きい割安株のロング銘柄の組入を行います。

引き続き、成長力や競争力といった中期的な視点により割安銘柄と割高銘柄の選別を進めます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービシス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユークイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号
	加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/
	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号
	加入協会:日本証券業協会

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

**当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。**